

シンポジウム 2

「機能性ディスぺプシアを多角的に評価する、
病態を解明し治療法を探る」

New horizon for the pathophysiological and therapeutic investigation
of functional dyspepsia (FD)

司会 春日井邦夫（愛知医科大学消化管内科）
鈴木 剛（東都医療大学管理栄養学部）

2013年に日本の保険診療名として初めて機能性ディスぺプシア（以下FD）が承認され、さらに翌年にはFD診療ガイドラインが発表されたことで、実臨床では混沌としていたFD診療が一定基準を有した診療へと変遷しつつある。しかしFDの病態はまだまだ不明な点が多く、内視鏡の役割・薬剤効果判定法・症状発現の機序などの面での探求が必要と考えられる。本ワークショップではFDを多角的に評価し、FD診療をより分かりやすいものへと歩を進めたいと考えている。FD議論に一石を投じる演題を期待する。